

## ■ おおいた革新的技術・データ活用推進計画の概要

### 目 的

IoTやAI、ロボット、センサー等の普及による第4次産業革命が進行し、情報通信技術やデータが産業社会に与える影響はますます大きくなっている。

第4次産業革命の技術やITなど社会にイノベーションを興す革新的技術や、介在するデータをどう活かすかは、地方創生に取り組む本県にとっても、その成否を左右する重要なテーマである。

革新的技術やデータを民間、行政を問わずあらゆる分野で積極的に活用し、人口減少や産業構造の変化によって生じる様々な地域課題の解決や新たな産業活力の創出、さらには行政事務の効率化と行政サービスの充実を図ることにより、これからの時代の県民生活を支える基盤づくりと安全・安心かつ豊かな暮らしの実現に資する。

### 位置づけ

- 官民データ活用推進基本法に基づく都道府県官民データ活用推進計画
- 大分県版第4次産業革命「OITA4.0」を中長期的に推進するための計画

### 計画期間

平成31年度から平成33年度までの3年間

### 推進体制

- 大分県電子県庁推進本部の下に「官民データ活用推進部会」を設置して推進
- 大分県電子県庁推進本部において、毎年度KPI等のフォローアップを実施

### 基本方針、個別施策

#### 施策に掲げる大項目

#### 民間分野

大分県版第4次産業革命「OITA4.0」

革新的技術の活用促進

中小企業・小規模事業者等の情報リテラシーの向上とIT化の推進

IT人材の確保・育成

IT企業の誘致

#### 行政分野

政府が示す記載事項（官民データ活用推進計画策定の手引き）

行政手続のオンライン化推進

オープンデータの推進

マイナンバー制度とマイナンバーカードの普及・活用

デジタルデバйд対策

ICTによる業務効率化

情報セキュリティ対策

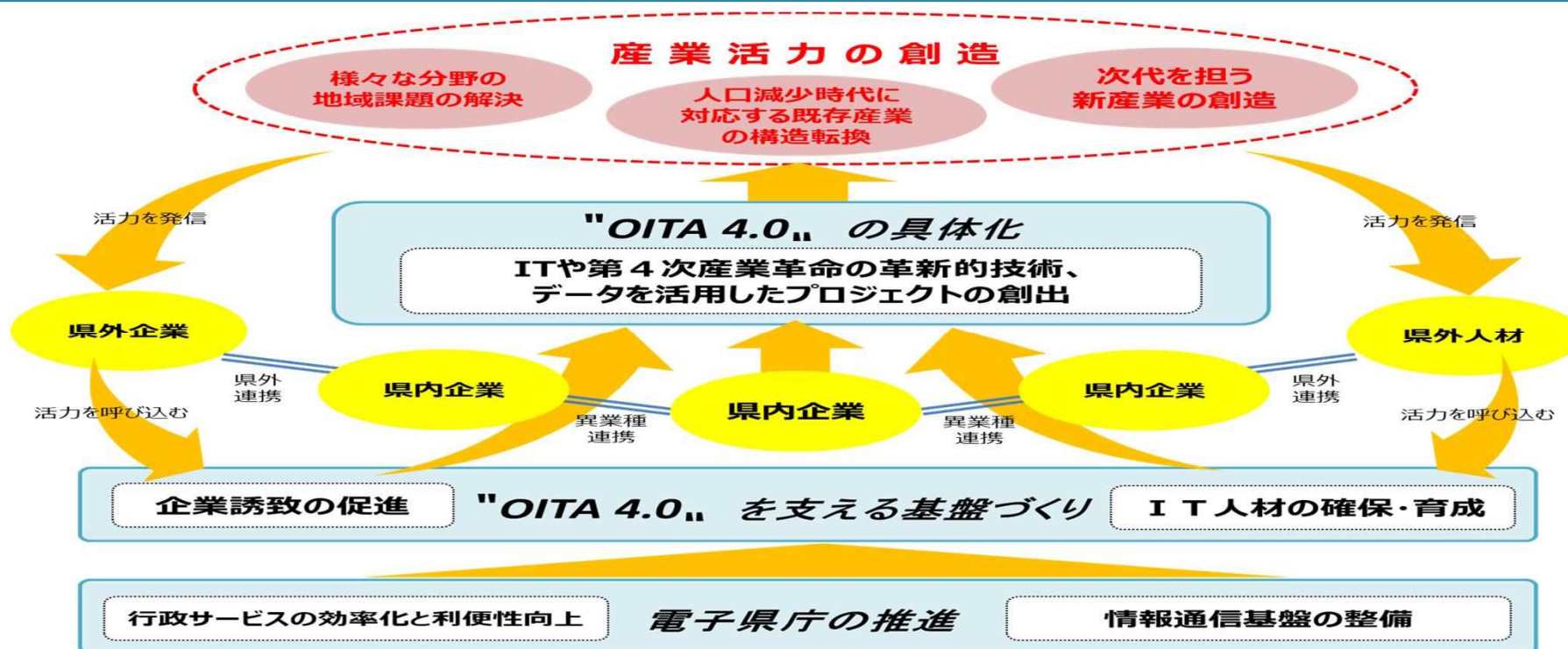
## ■ 基本方針

### 民間分野

- ITに加え、IoTやAI、ロボット・センサー、ドローンなど第4次産業革命の技術や、そこに介在するデータを活用し、人口減少や産業構造の転換等によって生じる様々な地域課題を解決するとともに、県内外の企業の技術を活用し、あるいは地域や業種を越えた企業の連携を促すことにより、新たなビジネスモデルの創出、さらには第4次産業革命の時代に対応する新産業の創造を目指していく。
- そうした環境を持続的なものとしていくため、県外の技術やノウハウを有する企業を積極的に呼び込み、県内外の企業、人材が活発に行き来する状況をつくり出していく。また、第4次産業革命のカギをにぎるIT人材について、質量ともに不足する現状を打破するため、産学官が連携し人材確保・育成の取組を強化していく。

### 行政分野

- ITに加え、IoTやAI、ロボット・センサーなど第4次産業革命の技術や、そこに介在するデータを活用し、業務の一層の効率化と県民の利便性向上を目指していく。
- きめ細かい県民サービスや、民間企業による革新的技術を活用したサービスを実現するためのインフラ整備にも取り組む。



## ■ 個別施策（民間分野）

### (1) 革新的技術の活用促進

#### 【横断的取組】

#### ① ITやIoT等の革新的技術を活用したプロジェクトの創出

「現場目線で見える課題を解決する」、「地場企業を伸ばす」、「県外企業の技術を活用し呼び込む」、「業種の枠を越えた連携を促す」の4つの方針の下、様々な分野でIoT等のプロジェクトを創出する。

- ・大分県IoT推進ラボによるマッチング活動や有望プロジェクトへの助成
- ・他地域との差別化を図るプロジェクトの創出（姫島ITアイランド構想、アバター等）

#### 【分野別取組】

#### ① ドローン産業の振興

大分県ドローン協議会を中心に、先端技術イノベーションラボを活用しながら、ドローンの機体・サービスの開発や、ドローン開発人材の育成、ドローンの様々な用途での普及を目指す。

- ・過疎山間地におけるドローン宅配の実用化

#### ② スマート農林水産業

水田農業分野、園芸分野、畜産分野、林業分野、水産分野において、ロボット技術やITを積極的に活用し、超省力・高品質生産を実現する。

- ・生産性向上や効率的な出荷調整を可能にするモニタリングシステムの導入推進

#### ③ i-Construction

調査・測量、設計、施工、検査、維持管理・更新などの建設生産プロセスにおいてICTの活用を進め、建設業者の生産性の向上を図る。

- ・建設現場の生産性向上に資する機器の導入支援
- ・施設点検におけるドローン活用可能性検討

### (2) 中小企業・小規模事業者等の情報リテラシーの向上とIT化の推進

商工団体やITベンダーと連携し、中小企業等に役立つITツールや優良事例、支援制度の周知・活用を図る。

### (3) IT人材の確保・育成

短期的には、高等学校や大学、専門学校との連携による県内企業のIT人材の確保や、企業による即戦力人材の育成、IT人材の交流の場づくり、情報セキュリティ人材の育成などの取組を実施する。

中長期的には、産学官の連携により第4次産業革命時代のニーズに応える人材育成に取り組む。

- ・県外IT企業による開発合宿やハッカソン等の開催による県内企業・人材との交流促進
- ・小中学校におけるプログラミング教育の推進

### (4) IT企業の誘致

市町村や県外事務所と連携したワンストップサービスにより、IT企業の受け入れ体制を充実させるほか、条件不利地域における情報通信インフラの整備を進め、IT企業のさらなる誘致に取り組む。

## ■ 個別施策（行政分野）

### （1）行政手続のオンライン化推進

電子申請等受付システムについて、スマートフォンなどの携帯端末からアクセス可能な簡易申請機能の対応手続を増やすほか、電子申請が可能な手続を拡大し、利用者の利便性を向上させる。

### （2）オープンデータの推進

県が保有するデータについて、公開データ数を増やすとともに、データ形式や表示方法について、より利用しやすい形での公開を行う。また、公開方法については、市町村等との連携を推進する。

地域経済分析システム「RESAS」について、政策立案・評価等における有効活用を進める。

### （3）マイナンバー制度とマイナンバーカードの普及・活用

県や市町村の情報連携による添付書類の削減や住民票の写しなどが取得できるコンビニ交付サービス、マイキープラットフォームを活用した自治体ポイント制度の導入など、マイナンバーカードの利用範囲の拡大を図る。

### （4）デジタルデバйд対策

#### ① 情報通信基盤の整備促進

市町村と連携し、携帯電話不感地域の解消や、条件不利地域における光ファイバーの整備に取り組む。また、5GやLPWAなど「OITA4.0」の推進に資する新たな通信規格の実証にも取り組む。

#### ② ホームページアクセシビリティの向上

県庁ホームページについて、字幕・音声解説の付与、多言語化などの改善を進め、誰もが見やすく使いやすいWebサイトづくりに努める。

### （5）ICTによる業務効率化

モバイルワーク、サテライト・オフィス、テレビ会議などこれまで導入してきたICTによる業務効率化の取組を一層推進する。

また、RPAやAIなどの新しいツールの活用についても検討し、業務効率化の領域を拡大していく。

### （6）情報セキュリティ対策

保有する県民の個人情報や民間企業の経営情報を守りつつ、行政サービスを提供するため、情報セキュリティ対策のレベルを強化するとともに、職員の情報リテラシーの向上を図る。

## ■ 革新的技術やデータ活用で変わるわたしたちの暮らし

### 毎日の生活がより便利に

- 年をとってバスに乗って買い物に行くのもつらくなっていくけど、ボタン1つでドローンが家まで商品を届けてくれるようになった。
- 病院に行かなくても、ロボットの画面にお医者さんが現れ、診察してくれるようになった。
- 市役所が公開しているデータを利用したアプリをスマートフォンにダウンロードしておいたら「明日は缶・ビン類のゴミ出し日ですよ」という連絡が届いた（危うく忘れるところだった…）。



### 毎日の生活がより楽しく

- たまっていた〇〇カードのポイントが、マイナンバーカードを使うと地域のお店の買い物で使えるようになった。
- 大好きな映画のダウンロードが3秒でできるようになった。
- ゴーグルをつけると、テレビのスポーツ観戦やコンサート視聴が360度の視点で楽しめるようになった。



### 役所の手続きがかんたんに

- 引っ越し時の水道利用開始届けや、〇〇市主催の△△教室の申し込みがスマートフォンからできるようになった。
- 子どもが生まれたので、手続きしようと市役所に行った。ロビーにあるパソコンに問いかけると、必要な書類や窓口が画面にすぐ表示された。

### 観光客もより楽しく

- 地元でひそかに有名な居酒屋に行ってみた。メニューについているQRコードを読み取ると、母国語のメニューを見ることができた。
- 県庁の外国語ホームページを見たら明日は泊まっているホテルの隣町でお祭りがあることがわかった。せっかくなので行ってみよう。
- 東京から遠隔ロボットで大分の魚を釣り上げ、その魚を送ってもらったら、とてもおいしかった。今度実際に大分へ行ってみたくなった。



### 毎日の生活がより安全に

- 独り暮らしのお年寄りの動きや、体温・血圧などのバイタルデータが、家族や病院で自動的にわかるようになった。
- 駅のカメラに映った映像から、犯罪者がすぐに特定できるようになった。
- 土地の3次元データや衛星データなどを使って、詳しい災害予測ができるようになった。

### 仕事がスピーディ・スマートに

- 書類の集計作業がボタン1つで自動的にできるようになった。おかげで月末も残業せずに済むようになった。
- 工場の機械がすべてつながったので、シミュレーションが短時間でできるようになった。納期をすぐにはじき出せるので、昨日も急いでいるお客からの特注品を受注することができた。
- 暑い中、畑の農薬散布や草刈りがたいへんだったけど、最近はドローンや自動草刈機がほとんどやってくれるようになった。
- 建設現場の測量がドローンに、工事の多くが無人建機に変わり、危険な作業が減って、仕事のスピードがアップした。
- 海で養殖している魚の大きさがカメラを通して事務所から測定できるようになった。ちょうどよい大きさに育ったタイミングで出荷ができるようになった。



(注) ■は本文中の民間分野、□は行政分野より